

カリキュラム区分		3カリ			シラバス区分		大学院			
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選区区分	科目名（上段：和名、下段：英名）		時間	単位	
		学年	学期							
専門分野	M228	2年	通年	看護学	必修	特別研究Ⅱ		180	6	
						Advanced ResearchⅡ in the Specialty Division				
担当教員										
中西 純子		野本 百合子／北川 恵		徳永 なみじ／窪田 静		豊田 ゆかり／仲渡 江		中越 利佳		
田中 昭子		越智 百枝		中平 洋子		田中 美延里		鳥居 順子		
関連するDPキーワード（看護学専攻）										
☐	① 看護に関する理論学習を通して経験を意味づける力を身につけている。									
☐	② 人々の健康に関連する諸現象を分析し構造化する力を身につけている。									
☐	③ 論理的に思考し他者にわかりやすく説明する力を身につけている。									
☐	④ 看護実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけている。									
☐	⑤ 看護実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法と態度を身につけている。									
☐	⑥ 保健医療分野に関して広い見識を身につけている。									
関連するDPキーワード（医療技術科学専攻）										
	① 臨床検査学について自ら深く学習する力を身につけている。									
	② ヒトの体の仕組みや機能を科学的に説明する力を身につけている。									
	③ 健康・病気について論理的に思考し他者に分かりやすく説明する力を身につけている。									
	④ 臨床検査実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけている。									
	⑤ 臨床検査実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法・技術を身につけている。									
	⑥ 保健医療分野に関して広い見識を身につけている。									
授業目的										
根拠に基づく看護実践や看護管理、看護学教育の展開に向けて、「特別研究Ⅰ」で作成した研究計画書を洗練して実際に研究を遂行し、新たな知見を導くとともに、研究成果の活用可能性を検討する。また、実施した研究の内容を的確に表現し、他者に研究の背景や意義が伝わる研究論文を作成するための能力を修得する。これらの過程を通して、自身の専門性を高めるとともに、地域の保健医療の質向上に寄与できる研究能力および研究者としての態度を修得する。										
到達目標（授業目標）										
①「修士論文研究計画発表会」における質問や意見、助言などを受けて研究計画書を洗練し、研究倫理審査委員会の承認を得る。										
②研究倫理審査委員会から承認を得た研究計画書に基づき、倫理的な配慮の下、データを収集する。										
③研究方法論を適切に適用して収集したデータを分析し、研究の目的・目標と整合性のある結果を導く。										
④導いた結果を確認、解釈し、先行研究や文献を用いて考察することを通して、結果の意義や活用可能性を述べる。										
④自らが導き出した研究成果を客観的に評価し、研究の限界や今後の研究の方向性を述べる。										
⑤研究の成果を修士論文としてまとめ、期日までに提出する。										
⑥研究の内容を決められた時間内に、聴衆に分かりやすく伝え、質疑に対し誠実に対応する態度を示す。										
⑦論文内に記述した内容についての質疑に対し、具体的、かつ適切に説明し、著者としての意見を述べる。										
授業計画（項目・内容と方法・担当者）										

授業概要	1～10回	研究計画書を洗練し、研究倫理審査のための書類を作成（審査を受審、承認後に研究を開始）						
	11～40回	研究の遂行（研究対象者への依頼、データ収集・分析など）						
	41～50回	中間発表会での発表、質疑を受けての研究過程・結果の評価、修正						
	51～70回	研究の遂行（継続）、論文執筆						
	71～90回	論文執筆（継続）、修士論文発表会、最終試験（口頭試問）の準備 完成した論文の提出						
	〔研究指導領域〕							
	【基盤看護】							
	● 野本百合子／北川 恵：看護基礎教育、看護継続教育など、看護専門職者の職業的発達を支援するための教育活動に資する成果を得るために、看護学教育に関わる現象に関する研究課題を追究する。							
	● 徳永なみじ／窪田 静：看護教育学・技術学領域の中から、生理学的指標等を用いた看護技術の開発・検証・及び看護技術教育に関わる研究課題を追究する。							
	【育成支援看護】							
● 豊田ゆかり／仲渡江美／藤原紀世子：生涯発達の考え方から、小児・母性及びその家族の健康や生活支援について研究課題を追究する。								
● 中越利佳：母性・助産学領域の中から、主として、女性とその家族に対するリプロダクティブヘルスケア、プレコンセプションケアに関する研究課題を追究する。								
【成人看護】								
● 中西純子：急性期・慢性期を問わず、疾患や治療とともに生きる人の心理的適応（意思決定支援等）や社会生活への適応（生活行動の再獲得支援や就労支援）を促進する看護に関する研究課題、及び看護職の人材育成に関する研究課題を追究する。								
● 松井美由紀：成人看護学領域の中から、主に急性期、がん看護に関する研究課題、及び看護管理（特に、人材育成）に関する研究課題を追究する。								
【高齢者看護】								
● 田中昭子：地域高齢者の健康支援や在宅高齢者の療養支援に関する看護についての研究課題を追究する。								
成績評価方法及び基準								
1) 提出された修士論文の完成度（60％）、2) 修士論文発表会への取り組み（15％）、3) 研究力の修得（15％）、4) 研究への取り組み（10％）により評価する。トータル60点以上を合格とする。評価基準の詳細は、以下のとおり。								
1) 提出された修士論文の完成度（60％） …※「修士論文作成の手引き」に記載された「修士論文審査基準」参照								
2) 修士論文発表会への取り組み（15％）								
①発表会の参加者が研究内容を理解でき、その研究の意義や成果の活用可能性が伝わるように発表内容を構成し、質疑応答に向けた準備ができていたか。								
②発表の際、分かりやすく、研究内容が伝わるように落ち着いて発表できたか。								
③質問者に対して誠実、かつ真摯に対応し、適切なコミュニケーションがとれたか。								
3) 研究力の修得（15％）								
①文献や先行研究を読み解く力を修得できたか。								
②1つの研究方法論を忠実に展開する能力を修得できたか。								
③現象を抽象化したり、知識を具体化したりする力を修得できたか。								
4) 研究への取り組み（10％）								
①研究の全過程を通して、研究に主体的に取り組めたか。								
②研究の全過程を通して倫理的に行動し、研究者としての倫理的態度を修得できたか。								
教科書	各指導担当教員が、随時、紹介する							
参考図書等	各指導担当教員が、随時、紹介する							
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）								
指導担当教員の指導を受けながら、研究倫理審査の受審、研究対象者への依頼、データ収集・分析、考察を進めるため時間外学修・研究推進活動を必要とする。								
関連科目								
前科目	M227	特別研究Ⅰ		各専門領域の特論		各専門領域の演習		
後科目								
実務家教員								
備考	※研究計画に基づき、指導担当教員の指導を受けながら研究を推進し、論文を執筆して指定の期日までに、事務局へ提出する。また、修士論文発表会における研究成果の発表・質疑応答、最終試験における口頭試問を通して研究力の修得状況を評価する。							